

『英学史研究』執筆要項

1. 用紙は A4 判横書き，レイアウトは 1 枚 38 字×31 行，余白は上下左右 25 mm とする。ページは挿入しない。
2. 表題及び本文は英文または和文とする。
3. 英文の場合は，著者の専門性により，CMS (*The Chicago Manual of Style*)「注・文献目録方式」(ただし文献目録は省略)，APA (*Publication Manual of the American Psychological Association*) のいずれかを選択のうえ，その最新版に従う。ただし，表題と著者名のレイアウト・備考，文字のフォント・サイズについては 4 項に準じ，本文は著者名に 1 行空けて始め，各段落の書き出しは半角 5 字下げとする。
4. 英文要約の表題，著者名は中央揃えとし，その他のレイアウト・備考は 6～7 項に準ずる。表題は，冠詞，3 文字以下の接続詞・前置詞以外は，すべての語頭を大文字にする。著者名は，名の語頭のみ，姓はすべて大文字とし，ローマ字表記はヘボン式とする(例：Shizuka FUJII)。見出し (Abstract) は著者名に 1 行あけ，中央揃えで記載する。本文は見出しの次行から字下げなしで始め，改行はせず 1 段落とする。フォントはすべて Times New Roman とし，表題，著者名，見出し，本文のサイズはそれぞれ 14 pt (太字)，12 pt (太字)，12 pt (太字)，12 pt とする。
5. 和文の場合は，5～19 項の通りである。文字のフォント・サイズ等は下記に従う。

箇所	フォント	サイズ	揃え	備考
表題	MS明朝	14 pt (太字)	中央	
著者名	MS明朝	12 pt (太字)	中央	投稿時は空欄
見出し	MSゴシック	12 pt (太字)	左	1. 2. 3.1 のように続ける
箇条書き	MS明朝	10.5 pt (太字)	左	(1) (2) (3) のように続ける
本文	MS明朝	10.5 pt	両端	
図タイトル	MS明朝	10.5 pt	中央	図1. 図2. 図3. のように続ける
表タイトル	MS明朝	10.5 pt	左	表1. 表2. 表3. のように続ける
表の注	MS明朝	9 pt	左	
謝辞見出し	MSゴシック	10.5 pt (太字)	中央	表記は 謝辞 とする
謝辞	MS明朝	10.5 pt	左	
注見出し	MSゴシック	10.5 pt (太字)	中央	表記は 注 とする
注	MS明朝	10.5 pt	両端	1. 2. 3. のように続ける
参考文献見出し	MSゴシック	10.5 pt (太字)	中央	表記は 参考文献 とする
参考文献	MS明朝	10.5 pt	両端	
欧文	Times New Roman	箇所に準拠	箇所に準拠	ただし本文は12 pt

6. 表題はページの最上行に記載し、副題がある場合は本題末尾にコロンを付して改行する。
7. 表題に 1 行空けて著者名を記載する。著者が複数いる場合は改行する。ただし、投稿時、著者名は記載しない。
8. 著者名に 1 行空けて見出しを記載する。見出しの数字（半角ピリオド含む）と語の間には半角 1 字のスペースを入れる。
9. 見出しの次行から本文を始める。各段落の書き出しは全角 1 字下げとする。
10. 本文の句読点は「,」と「。」とする。
11. 本文の英数字には半角を使用し、数字はすべて算用数字とする。
(例) 1886 年 4 月 1 日 この 3 編の論文は・・・ また、第 12 章では・・・
12. 本文中の書名には『』, 論文名は「」を用い、欧文はいずれもイタリック体とする。
(例) 『英学史研究』 「明治日本の英語劇」 *Modern Japan*
13. 本文の漢字表記は、名前を含め新字体を用いるが、史料引用においては原文の表記を維持する。
14. 本文で難解と思われる漢字表記（人名・地名・役職名等）は、初出の箇所のみ全角（）で読み仮名を付す。
(例) 湛察加（カムチャツカ/かむさすか） 番書和解御用（ばんしょわけごよう）
15. 本文で外国の人名、地名、書名、その他必要と思われる固有名詞等をカタカナ表記する場合は、初出の箇所のみ全角（）で原名を付す。
(例) ラフカディオ・ハーン (Lafcadio Hearn)
16. ページ数等、複数の数字を結ぶ場合は「en dash (–)」を用いる。
17. 本文中での引用は全角（）を用い、（）内は欧名、和名の順、それぞれアルファベット順、五十音順とする。著者が 2 名の場合は、間を中黒「・」で区切る。著者が 3 名以上の場合は、「[第一著者名] ほか」とする。全角に続くカンマ、ピリオドはそれぞれ全角「,」「.」を用いるが、半角英数字に続く場合は、セミコロンを含め半角「,」「.」「;」を用いる。
(例) (Cohen, 1988; 磯田, 2004) (山本, 2002, p. 143)
永田・吉居 (1997) によれば・・・ 田部井ほか (2001)
18. ブロック引用は前後 1 行ずつ空け、1 字下げとする。
19. 注、参考文献の書き方は、下記の例に従う。例のない場合は、CMS 及び APA の書式を適宜、和文に置き換える。ただし、和文ではイタリック体は用いない。また、CMS の場合、文献目録は不要、APA の参考文献は本文で引用したもののみを欧文、和文の順で括り、それぞれアルファベット順、五十音順とする。
(例) CMS「注・文献目録方式」の場合の注
 1. Charles Yu, *Interior Chinatown* (Pantheon Books, 2020), 45.
 2. Yu, *Interior Chinatown*, 48.
 3. Benjamin Bagley, "Loving Someone in Particular," *Ethics* 125, no. 2 (January 2015): 484–85.
 4. Bagley, "Loving Someone in Particular," 501.
 5. Mike Royko, "Next Time, Dan, Take Aim at Arnold," *Chicago Tribune*, September 23, 1992.
 6. Royko, "Next Time, Dan, Take Aim at Arnold."
 7. George Creel to Colonel House, 25 September 1918, Edward M. House Papers, Yale University

Library.

8. Creel to House, 25 September 1918.
9. 豊田實『日本英學史の研究』（岩波書店，1939 年），306–7.
10. 豊田『日本英學史の研究』，76.
11. 池田哲郎「紀州英学史素描」『英学史研究』1（1969 年）：3, 5.
12. 池田「紀州英学史素描」，9.
13. 青園謙三郎「町村金弥」『福井新聞』，1967 年 10 月 9 日.
14. 青園「町村金弥」.
15. 頭本元貞，頭本保五郎宛，1884 年 9 月 30 日，個人蔵.
16. 頭本，頭本保五郎宛，1884 年 9 月 30 日. 1. Makoto Suzuki, *Modern Japan* (Toei University Press, 2005), 145–46.

(例) APA の場合の参考文献

- Burgess, R. (2019). *Rethinking global health: Frameworks of power*. Routledge.
- Finley, J. R., Tullis, J. G., & Benjamin, A. S. (2010). Metacognitive control of learning and remembering. In M. S. Khine & I. M. Saleh (Eds.), *New science of learning: Cognition, computers and collaboration in education* (pp. 109–131). Springer. https://doi.org/10.1007/978-1-4419-5716-0_6
- Frank, L. K. (1935, February 4). [Letter to Robert M. Ogden]. Rockefeller Archive Center (GEB Series 1.3, Box 371, Folder 3877), Tarrytown, NY, United States.
- Hess, A. (2019, January 3). Cats who take direction. *The New York Times*, C1.
- McCauley, S. M., & Christiansen, M. H. (2019). Language learning as language use: A cross-linguistic model of child language development. *Psychological Review*, 126(1), 1–51. <https://doi.org/10.1037/rev0000126>
- 青園謙三郎（1967, October 9）. 「町村金弥」『福井新聞』，3.
- 池田哲郎（1969）. 「紀州英学史素描」『英学史研究』1, 1–14.
- 頭本元貞（1884, September 30）. [頭本保五郎宛書簡] 個人蔵.
- 豊田實（1939）. 『日本英學史の研究』岩波書店.
- 吉村昭（1976）. 「フェートン号事件」日本英学史学会（編）『英語事始』（pp. 35–40），エンサイクロペディアブリタニカ（ジャパン）インコーポレーテッド.

2016 年 5 月 7 日改定

2019 年 5 月 11 日改定

2026 年 10 月 7 日改定